

福島再生加速化交付金(福島定住等緊急支援)  
/福島定住等緊急支援交付金

定住緊急支援事業計画の実績に関する評価

平成30年12月  
福島県 広野町

(様式1)

## 定住緊急支援事業計画に基づく事業等の評価一覧

平成30年12月時点

1) 事業の実施概要

(単位:千円)

No.	事業番号 (注1)	事業名 (注2)	地区名 施設名	基幹/ 効果促進	事業 実施 主体	全体事業費 (注3)	全体事業 期間 (注4)	年度事業費(注5)					評価 実施時期(注6)	その他
								平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度		
1	A - 1 - 1	広野町児童館大型遊具更新事業	広野町児童館	基幹	町	(6,727) 6,727	28~28				(6,727) 6,727		H30.12	
2	A - 1 - 2	広野小学校遊具更新事業	広野小学校	基幹	町	(25,110) 25,110	29~29				(25,110) 25,110		H30.12	

2) 事業計画に記載した地域の復興における支障の解決に係る目標(注7)

指標	従前値		目標値		実施後の値		達成度	モニタリング方法	効果発現要因 (総合所見)	今後の対応	備考(注8)
	基準年度	目標年度	基準年度	目標年度	確認年度	確認年度					
目標1 新体カテスト総合評価A割合(%) (4, 5, 6年生)	男: 9.6 女: 10.0	H27	男: 20 女: 20	H33	男: 6.5 女: 18.2	H30	男: -29.8% 女: 82.0%	新体カテスト	子どもの外遊びの場が確保され、運動不足が解消され、体力の向上が見られるもの男女ともに目標には到達できていない。 ●子どもの運動をより効果的に行うためのアドバイス等を行うブリーダー的役割を担う人材育成のため必要な研修会等に参加する。 ●遊具の更新情報や児童館の利用時間等について町ホームページや広報誌等で広く広報し、一般の利用促進を図る。	以下の取組を行い、目標達成に向け、今後もフォローアップを行う。 ●子どもの運動をより効果的に行うためのアドバイス等を行うブリーダー的役割を担う人材育成のため必要な研修会等に参加する。 ●遊具の更新情報や児童館の利用時間等について町ホームページや広報誌等で広く広報し、一般の利用促進を図る。	A-1-1, A-1-2
目標2 肥満傾向児童割合(%) (4, 5, 6年生)	男: 19.4 女: 15.0	H27	男女12.5%以下	H33	男: 32.2 女: 13.3	H30	男: -185.5% 女: 68.0%	新体カテスト(肥満度)	子どもの運動の機会が増え女子については改善が図られたが、男子については悪化した。 ●児童館の職員や小学校の教諭などに対し、更新遊具の更なる利用促進を周知し、肥満が解消するよう効果的な授業や取組みを行い、児童に様々な体の動かし方、遊ぶ楽しみを体験する機会を提供するとともに、運動不足による肥満をより効果的に解消するため、保健師による生活習慣の見直しを推進し、また栄養士による食生活の改善を図る指導を行っている。	以下の取組を行い、目標達成に向け、今後もフォローアップを行う。 ●児童館の職員や小学校の教諭などに対し、更新遊具の更なる利用促進を周知し、肥満が解消するよう効果的な授業や取組みを行い、児童に様々な体の動かし方、遊ぶ楽しみを体験する機会を提供するとともに、運動不足による肥満をより効果的に解消するため、保健師による生活習慣の見直しを推進し、また栄養士による食生活の改善を図る指導を行っている。	A-1-1, A-1-2

3) その他目標(2)に掲げたもの以外の目標(注7)

指標	従前値		目標値		実施後の値		達成度	モニタリング方法	効果発現要因 (総合所見)	今後の対応	備考(注8)
	基準年度	目標年度	基準年度	目標年度	確認年度	確認年度					
目標1 児童館入館児童数	49名	H27	80人	H33	75人	H30	83.9%	児童館入館名簿(30年10月確認)	安心して外遊びが出来る場所が出来たことで、児童館の入館者が増加している。 ●遊具の更新情報や児童館の利用時間等について町ホームページや広報誌等で広く広報し、一般の利用促進を図る。	以下の取組を行い、目標達成に向け、今後もフォローアップを行う。 ●遊具の更新情報や児童館の利用時間等について町ホームページや広報誌等で広く広報し、一般の利用促進を図る。	A-1-1
目標2 子どもの帰還率(幼小中)	帰還率48.7%	H27	帰還率90%	H33	帰還率75.9%	H30	65.8%	学齢簿上の数と実際の通学数の割合(30年10月実施)	児童館の設備が充実したことで、放課後に安心して預けられる場所となり、子どもの帰還率が増加した。 ●遊具の更新情報や児童館の利用時間等について町ホームページや広報誌等で広く広報し、一般の利用促進を図る。	以下の取組を行い、目標達成に向け、今後もフォローアップを行う。 ●遊具の更新情報や児童館の利用時間等について町ホームページや広報誌等で広く広報し、一般の利用促進を図る。	A-1-1, A-1-2

(注1)「事業番号」は、基幹事業については、「(制度要綱別表の番号)-(同一事業計画中の同種の事業の通し番号)」、効果促進事業については、「◆(最も関連する基幹事業の事業番号)-(最も関連する基幹事業ごとの通し番号)」となるよう記載する。

(注2)「事業名」は定住緊急支援事業計画に記載された事業名を記載する。

(注3)「全体事業費」は、「全体事業期間」を通じての全ての事業費と交付対象事業費をそれぞれ記載する(交付対象事業費は()で記載)。

(注4)「全体事業期間」は、事業着手年度から全ての事業内容が完了する年度までを記載する。

(注5)「年度事業費」は、事業着手から事業完了年度までの各年度の交付対象事業費と全ての事業費の実績額をそれぞれ記載する(交付対象事業費は()で記載)。

(注6)「評価実施時期」は、定住緊急支援事業計画に基づく事業等が完了した日の属する年度の翌年度の12月末日までの実施した時期を記載する。

(注7)2)には定住緊急支援計画に記載した内容を、3)には定住緊急支援計画上全く記載をしていないものの、今回の整備により期待される効果があれば記載する。

なお、A-1-B-1,2,C-1事業については、子どもたちが十分に運動する機会の確保の観点、C-2,C-3については子育て世帯の定住に資する観点から、維持管理や運営の視点、ソフト事業との相乗効果などの面も含め目標を記載する。

(注8)「備考」の欄には、当該目標の評価対象となる事業番号を記載する。

(様式2)

## 個別事業等実績評価シート

平成30年12月時点

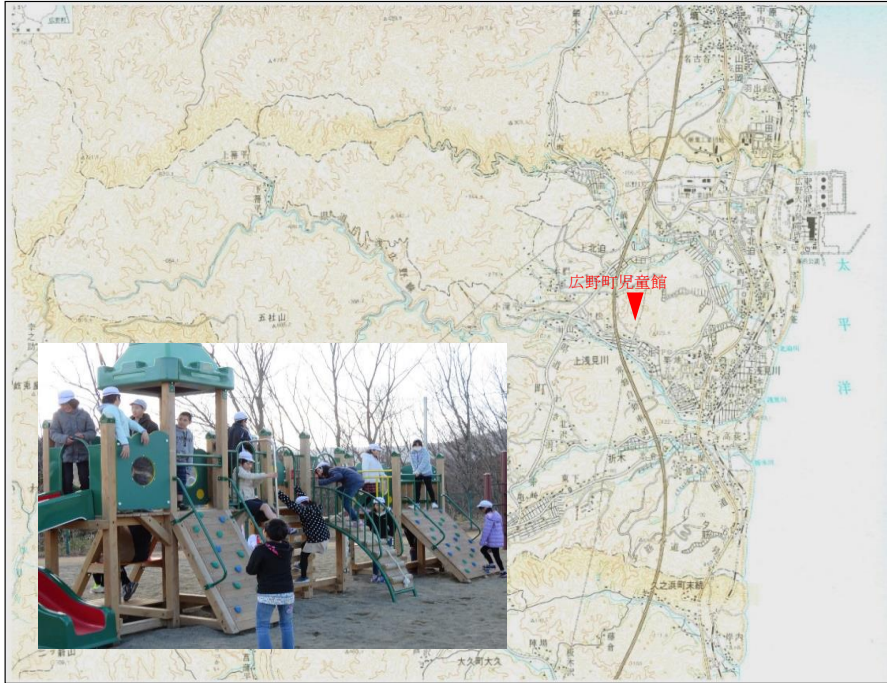
県名	福島県	交付期間	平成28年度	交付対象事業費	6,727千円
市町村名	広野町	実績評価実施時期	平成30年度	評価対象事業	A-1-1

### 1) 事業の実施概要

事業計画に記載した地域の復興における支障を解決するための目標(注1)(注2)

広野町児童館の大型遊具を更新することにより、児童館本来の目的である「児童に健全な遊びを与えてその健康を増進し、情操豊にするとともに遊びをとおして、体力の増進をはかる。」ことの達成を図ると共に、子どもの遊び場の確保による子育て世帯の帰還促進、運動機会の確保、体力向上に結びつける。

#### 【区域全体図】



#### 【事業詳細】

##### (1) 事業概要

広野町児童館の木製大型複合遊具1基を更新 大きさ 幅 約3m 長さ 約9.4m 高さ 約4.2m

##### (2) 事業の実施状況

平成28年12月着工、平成29年3月竣工し、同年3月より利用を開始し、平日午前中は一般開放を行っている。

##### (3) 人口の流出及びそれにより生じている地域の復興における支障との関係の評価年度時点での情報を記載

原子力事故前の人口は5,418人(平成22年国勢調査人口)であったが、原子力事故の影響により町の人口は5,106人(H28.2)まで減少し、その内約53%にあたる2,686人(H28.2)が町外に避難し、小売店、医療機関、児童・生徒数の減少などの影響を及ぼした。現在においては、町の人口は4,790人(H30.10)まで減少し、その内約16%にあたる738人(H30.10)が今なお町外に避難している。町民帰還率は約84%強の状況であり増加傾向ではあるが、子ども(幼・小・中)の帰還率は約74%弱にとどまっている。また、子ども(小4～6年生)の運動能力については、女子において総合評価Aの割合が8.2ポイント増加するなど改善の兆しがある。肥満傾向についても、女子において改善が顕著に表れている。しかしながら男子については、体力測定でB評価以上の数に改善が見られるものの、肥満状況は横ばい状況で有り、運動のみならず食生活の指導も考慮したい。児童館の登録児童数については増加し、原子力事故前の水準に到達している。(定員80名に対して75名在籍。H30.10調べ)

##### (その他)

##### 外部評価(1)

設置から1年が経過し、新体力テストの結果においてA評価では女子の改善が図られた。男子については、今回目標に届かなかったが、休憩時間において屋外で運動する児童数は明らかに増加しており、今後さらなる改善が図れるよう期待したい。更に、肥満を効果的に解消するため、「早寝早起き朝ごはん」を徹底させるなど、学校生活をとおして生活習慣の見直し、食生活の改善が図られている。その効果が女子ではあらわれているものの男子ではまだ不十分である。広野町教育長 松本 正人

##### 外部評価(2)

友だちが遊ぶ様子を見て、外で積極的に遊ぶ姿が多く見られるようになり、ネットを使って渡る経験をしてバランス感覚が養われてきた。低学年には、4月当初は登り棒やロッククライミングでの上り下りができない子も見られたが、何度も挑戦することで出来るようになるなど、チャレンジする姿が見られるようになった。高学年は、さらに工夫して友だちと色々な遊び方をする姿が見られるようになった。また、帰還する住民も増加し、比例して児童館に通う子供たちも増加している。広野町児童館長 菅原恒二

##### 外部評価(3)

事業評価指標の一つである「肥満傾向児童割合」については、単に運動する機会を確保するだけでなく、食と健康、食と生活習慣の関わりについての理解が不可欠である。保健師、栄養士等による保護者への栄養教育・個別指導など食に関する普及事業等を、平成31年度を初年度とする10ヶ年計画「第二次広野町健康づくり計画」へ盛り込み、学校と一体となって指導していく。広野町保健センター所長 飯島 洋一

#### 事業計画推進による効果・変化

- 屋外遊具の設置により子どもの運動機会が大幅に増え、A評価では女子の改善が見られるものの男子は目標に及ばないが、全体的な体力向上により総合評価でA・B評価となる児童が男女ともに増加している。
- 運動不足が解消され、特に女子では肥満率の改善が見られている。

#### 効果、変化を踏まえた今後の方策(改善策を含む)(注2)

- 遊具の利用促進に繋がる施策の開催やプレイリーダーの育成、研修等の参加を促進していく。
- 肥満をより効果的に解消するため、保健師による生活習慣の見直しを推進し、また栄養士による食生活の改善を図る指導を行っていく。
- 児童館の開放について広報紙等とおしてPRし、一般の利用を進める。

(注1)様式1の2)に掲げた目標のうち、本様式に記載する事業に係るものを記載する。

(注2)様式1の2)に掲げた目標が複数の事業等を一体的に実施することで達成されると想定される場合、関連する事業等を総括した全体評価による記載も可とする。

(様式2)

## 個別事業等実績評価シート

平成30年12月時点

県名	福島県	交付期間	平成29年度	交付対象事業費	25,110千円
市町村名	広野町	実績評価実施時期	平成30年度	評価対象事業	A-1-2

### 1) 事業の実施概要

事業計画に記載した地域の復興における支障を解決するための目標(注1)(注2)

広野小学校において大型遊具を設置することで、放射能不安により屋外での運動機会をなくしていた子どもの運動不足解消や肥満児童の減少を図る。また、教育現場の充実を図ることで、現在避難を余儀なくされている子育て世代の帰還が進むことを期待している。



【事業詳細】  
(1) 事業概要  
遊具の更新 広野町立広野小学校 大型複合遊具 1基、複合遊具 1基、雲梯 1基、はん登棒 1基を更新。  
(2) 事業の実施状況  
・広野小学校大型複合遊具改修工事 平成29年4月に着工し、平成29年8月に竣工した。夏休み明けの8月下旬から利用開始している。  
・広野小学校遊具(複合遊具、雲梯、はん登棒)改修工事 平成29年12月に着工し、平成30年3月に竣工した。春休み明け4月の新学期から利用開始している。  
(3) 人口流出及びそれにより生じている地域の復興における支障との関係の評価年度時点での情報を記載  
原子力災害が発生する以前の人口は5,418人(平成22年国勢調査より)であったが、平成30年10月末時点の人口は4,790人まで人口減少が進行し、うち約15.4%にあたる738人が未だに避難を継続している状況にある。また、放射能不安により子供たちの屋外での運動機会は極端に減少し、それによる運動不足、肥満傾向が不安視されていた。平成30年度に開始された新体力テストでは、男女ともに全国平均から大きく劣っており、肥満度においては全国平均より高くなっていることが確認された。ついで、放射能不安を解消し、運動不足解消並びに体力向上に繋げる施策として実施し、子ども達の帰還促進を図る。  
(その他)  
外部評価(1)  
設置から1年が経過し、新体力テストの結果においてA評価では女子の改善が図られた。男子については、今回目標に届かなかったが、休憩時間において屋外で運動する児童数は明らかに増加しており、今後さらなる改善が図れるよう期待したい。更に、肥満を効果的に解消するため、「早寝早起き朝ごはん」を徹底させるなど、学校生活をとおして生活習慣の見直し、食生活の改善が図られている。その効果が女子ではあらわれているものの男子ではまだ不十分である。  
広野町教育長 松本 正人  
外部評価(2)  
友だちが遊ぶ様子を見て、外で積極的に遊ぶ姿が多く見られようになり、ネットを使って渡る経験をしてバランス感覚が養われてきた。低学年には、4月当初は登り棒やロッククライミングでの上り下りができない子も見られたが、何度も挑戦することで出来るようになるなど、チャレンジする姿が見られるようになった。高学年は、さらに工夫して友だちといろいろな遊び方をする姿が見られるようになった。また、帰還する住民も増加し、比例して児童館に通う子供たちも増加している。  
広野町児童館長 菅原恒二  
外部評価(3)  
事業評価指標の一つである「肥満傾向児童割合」については、単に運動する機会を確保するだけでなく、食と健康、食と生活習慣の関わりについての理解が不可欠である。保健師、栄養士等による保護者への栄養教育・個別指導など食に関する普及事業等を、平成31年度を初年度とする10ヶ年計画「第二次広野町健康づくり計画」へ盛り込み、学校と一体となって指導していく。  
広野町保健センター所長 飯島 洋一

事業計画推進による効果・変化(注2)

- 屋外遊具の設置により子どもの運動機会が大幅に増え、A評価では女子の改善が見られるものの男子は目標に及ばないが、全体的な体力向上により総合評価でA・B評価となる児童が男女ともに増加している。
- 運動不足が解消され、特に女子では肥満率の改善が見られている。

効果、変化を踏まえた今後の方策(改善策を含む)(注2)

- 遊具の利用促進に繋がる施策の開催やプレイリーダーの育成、研修等の参加を促進していく。
- 肥満をより効果的に解消するため、保健師による生活習慣の見直しを推進し、また栄養士による食生活の改善を図る指導を行っていく。

(注1) 様式1の2)に掲げた目標のうち、本様式に記載する事業に係るものを記載する。

(注2) 様式1の2)に掲げた目標が複数の事業等を一体的に実施することで達成されると想定される場合、関連する事業等を総括した全体評価による記載も可とする。